

小学校第1学年3組 生活科 学習指導案

期 日 平成24年10月23日(火) 第5校時

場 所 山鹿市立山鹿小学校 1年3組教室

指導者 教諭 牛島 由実

1 単元名

「いっしょがいいね」(教育出版上)

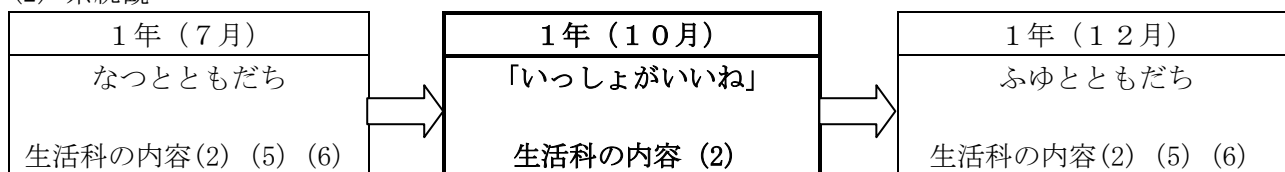
2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の内容(2)「家庭と生活」、具体的な視点「ア 健康で安全な生活」「イ 身近な人々との接し方」「コ 成長への喜び」「サ 基本的な生活習慣や生活技能」に重点を置き設定した。自分と自分を育ててくれる家族を学習対象とし、自分が家族に支えられていることへの感謝の気持ちをもち、自分ができることについて考え、規則正しく健康に気をつけて生活できるようになることをねらっている。

そこで、本単元では、家族や自分の生活を振り返ったり、家族のために自分ができることを考えたり、実際に活動する場面を設定したりすることにより、自分自身を見つめ、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活していくようにさせたい。また、この単元の学習活動は、児童の家族構成や家庭生活が異なるので、家庭の理解と協力を得ることが不可欠である。各家庭の差異を十分に尊重し、児童が安心して学習できるような配慮をしていく必要がある。

(2) 系統観



(3) 児童観

- 本学級は、男子14人、女子12人、計26人である。素直で何事にも興味関心を持って取り組む児童が多い。入学後、学校探検でグループによる探検をおこなったり、アサガオのお世話を頑張ったりと生活科の学習を好む児童が多く、積極的に活動している。
- 1学期の「なつともだち」では、夏を楽しむ活動の後、夏休みの計画を立てた。「夏休みがんばろうカード」で家のお手伝いについて考えた際には「靴ならべをしたい」「弟のお世話をしたい」「お風呂掃除をしたい」等の意見が出た。継続的にお手伝いを続けた児童も数名いた。日頃の児童との会話の中でも、お手伝いについて話題になることが多い。
- 学校生活は、全体的に落ち着いた生活を送ることができている。学校に来てからの一日の流れもおおよそ把握し、自分で片づけをしたり準備をしたりすることができるようになってきた。また、身の回りを清潔に保とうとしたり、朝食をしっかりとったりと基本的な生活習慣が整っている児童が多い。しかし、大人から言われてしているという児童が大半で、意義を考えて行動できている児童は少ない。
- 進んで思ったことを発表しようとする児童は多いが、個人差がある。アサガオの観察や夏遊びの際には、学習したことを絵と簡単な文でまとめて発表したり交流したりした。友達との活動を好む児童が多いが、自分の意見を通そうとする児童も数名いる。

(4) 指導観

- 活動のねらいや内容を事前に保護者に伝え、連携しながら活動を進めていくようにする。また、単元の終末には、家族から児童への手紙をもらうことで、家族への思いを理解させたい。
- 本単元の具体的な活動や体験は、家庭での時間外の活動となる。そこで、家庭での仕事について発表を行ったり「かぞくにこにこだいさくせん」後の発表や感想を交流したりする場を設定し、「自分の家族だったら」「自分だったら」と考えさせることにより、一人一人の児童の活動を広げさせたい。

○家庭内での仕事を行うことが「忙しさ」「大変さ」だけでとどまらず、「誰のために」「どんな気持ちで」なども合わせて考えることができるように言葉かけをする。

○家庭内の仕事が家族を支えていることに気付かせるために、家庭からの感謝の言葉やねぎらいの言葉などは意図的に取り上げ、広げていく。また、自分のことは自分でやることも大切であることを助言する。

○家の中での家族の仕事調べカード、お手伝いや「かぞくにここにこだいさくせん」の記録カードを作成し、家庭の時間外の活動の中で活用させることにより、継続して行うことができるようにする。

Bプロジェクト「知識・技能を活用する学習活動とパフォーマンス評価等を位置付けた授業設計」の視点から	
①知識・技能を活用する学習活動	
○「出会い」「イメージ化」「試しの体験」「情報加工（情報収集）」「本格的な体験」「体験や成長の振り返り」「新たな学びへの発展」という探究的な学習過程を設定し、家族のことを見つめたり、尋ねたり、実際に手伝いをしたり、また、家族が喜ぶことを見付けたり、工夫したりするという具体的な活動や体験を通して得られた気付きを次の活動へ生かすことにより、自分自身への気付きへと深まるようにしていく。	
②パフォーマンス評価	
○本格的な体験②の過程でパフォーマンス課題を提示し、「思考・表現」を連続的に見取る。	
○児童の姿を見取る際には、行動観察やカード分析などに、問いかけ、対話分析（能動的な評価）を関連付けて見取っていく。また、問いかけや対話においては、カウンセリングの手法を用いた言葉かけを積極的に活用していく。また教師は、学習活動中の児童のよさを数多く把握し、全体に紹介する時間を設けたり、科学的思考を促す問いかけをしたりして自分自身のよさに気付かせていくようにする。	

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	家庭生活やそれを支える家族について関心をもち、調べたり尋ねたりする活動を通して、自分でできることについて考え、家族への感謝の気持ちをもつとともに、家族の一員として意欲的に生活することができるようにする。
生活への 関心・意欲・態度	①家族のことや家庭での自分の生活を見つめようとしている。 ②家族のために自分でできることをしようしたり、感謝の気持ちを伝えようとしていたりしている。
活動や体験について の思考・表現	①家庭生活を振り返り、家族のことや自分のこと、自分でできることについて考えている。 ②自分でできることや家族が喜ぶことを見つけ、家庭生活が楽しくなるように工夫している。 ③家庭生活をよりよくするために取り組んできたことを振り返ったり、交流したりしている。
身近な環境や自分 についての気付き	①家族には、それぞれの果たしている仕事や役割、一人一人のよさがあることが分かり、自分でできるようになったことに気付いている。 ②家族の一員として、自分でできることや自分の役割が分かり、自分の生活や成長を支えてくれた家族の存在や温かさに気付いている。

4 指導・評価の計画（12 時間取扱い 本時 6 / 12）

	時	学習活動 ◆家庭での時間外活動	指導上の留意点 ※Bプロジェクトの視点	評価基準(B基準) (評価方法)
いえのなかで さがしてみよう	1	<出会い> ○自分の手を観察し、自分ができるようになったことを振り返る。 ○自分の家族のことや家族と一緒にいて楽しかったことを話し合う。	・学習カードに自分の手を写し、小さい頃と比べたり、その周りに自分のできるようになったことを書き込ませたりすることで、自分の成長を実感させる。 ・教科書の写真 (P. 62～63) を見ながら家族について思うことを想像させ、自由に話せるような雰囲気を作る。	気付き① (カード、発言) 自分ができるようになったことや家族との生活の中で楽しいことやしてもらっていることなどがいろいろあることに気付いている。
	家庭で	<試しの体験> ◆家庭の中で、誰がどんな仕事をしているのかを調べ、カードに書く。	・期間を決め、各家庭において家族の仕事を調べさせる。その際学習カードを宿題に出し、なるべくたくさん見つけて学習カードに書けるよう言葉かけをする。	関心・意欲・態度① (カード、対話) 家庭生活を支えるための家族の仕事を調べている。
	1	<情報加工 (情報収集) > ○調べたことを友達と伝え合う。	・調べた家族の仕事について、家族の気持ちについてもまとめることで、家族の思いや願いに触れることにもつなげる。	関心・意欲・態度① (発言・つぶやき) 調べた家族の仕事について調べたことを友達に伝えている。
		 おうちのしごとは、とてもたくさんあるんだな。ぼくにもできることはないかな。おてつだいにちょうせんしてみたいな。		
いえのしごと に ちょうせんしよう	1	<本格的な体験①> ○家庭の中で自分のできそうなこと、やってみたい仕事を考える。	・家庭にはあらかじめ協力を依頼しておき、児童が主体的に活動できる環境を整えておく。	思考・表現① (カード・発言) 家庭の中で自分のできることについて考えている。
	家庭で	◆家族と一緒に家の仕事をやってみる。 ◇自分一人のできることをさがしてやってみる。	※認めほめる言葉かけや、感想を児童にかけていただくようお願いをする。 ・継続して行うことができるように、記録カードを作成し毎日記入させるようにする。	関心・意欲・態度② (カード・対話) 自分で決めた家の仕事を家族と一緒にやったり、ひとりでやったりしている。
	2	○家庭でやってみた仕事について気付いたことをカードにかき、伝え合う。	・仕事をやってみて気付いたことや感想をカードに絵や文で表わす時間を十分に確保する。 ・伝え合う場面では、質問の時間を大切にし、自分の言葉で返していくように支援していく。	気付き① (カード・発言) やってみた仕事について気付きをカードにかき、友達と交流している。
		 おうちのしごとはむずかしかったけど、おかあさんがよろこんでくれたよ。もっとおうちのひとがにこにこになるように、わたしができることはないかな。		

かぞくにこにこ だいさくせん	1 (本時)	<本格的な体験②>		
		◆パフォーマンス課題の提示◆ 「かぞくにこにこだいさくせん」をしましょう。そして、かぞくがにこにこするひみつをともだちにおしえましょう。		
		○家族がにこにこしている時はどんな時か話し合い、「かぞくにこにこだいさくせん」の計画を立てる。	※パフォーマンス課題を提示し、試しの体験や本格的な体験①での気づきをもとに、目的意識をもって「かぞくにこにこだいさくせん」ができるようにする。	思考・表現②（カード・発言） 家族が喜ぶことを見つけ、「かぞくにこにこだいさくせん」の計画を立てている。
	家庭で	◆「かぞくにこにこだいさくせん」を家庭の中でやってみる。	※認めほめる言葉かけや、感想を児童にかけていただくようお願いをする。 ・取組の様子や家族の言葉などを記録するカードを作成し記入させるようにする。	関心・意欲・態度②（カード・対話） 「かぞくにこにこだいさくせん」を行っている。
	2	○「かぞくにこにこだいさくせん」で行ったことや分かったことを自分なりの表現方法で表わす。	※「かぞくにこにこだいさくせん」で見つけた秘密や気付いたことが自分なりの表現方法で表わすことができるように問いかけや対話を行う。	思考・表現③（行動観察、つぶやき、発言） 「かぞくにこにこだいさくせん」で気付いた秘密を友達に紹介できるように工夫している。
おはなしのじかん	2	◆パフォーマンス課題の見取り◆ 「かぞくにこにこだいさくせん」をしましょう。そして、かぞくがにこにこするひみつをともだちにおしえましょう。		
		○家族がにこにこする秘密を紹介し合う。	※児童の気づきが発表の中に表れなかった場合には、教師がそのことについて質問し、自分の言葉で表現させるようにする。	思考・表現③（発表の様子・発言・問いかけ） 家族がにこにこする秘密を自分なりに表現したものを使って紹介している。
		 かぞくみんながにこにこしてくれて、とってもうれしかったよ。これからもみんながにこにこすることをつづけたいな。		
おはなしのじかん	2	<新たな学びへの発展> ○教科書 P. 70, 71 のイラストを見て、家族みんなの気持ちや、家族の願いを考える。	※挿絵を見ながら話し合い、家族の思いや温かさを確かめ、それらに守られて成長してきた自分自身に気付くことができるようにするために、科学的思考を促す問いかけを意識的に行う。	気づき②（発言・つぶやき） ・家族の大切さや、自分が家族によって支えられていることに気付いている。
		○ありがとうカードを書き、これから自分が取り組んでいくことを考える。		思考・表現②（カード・発言） これから自分ができることを考えている。
		 おかあさん、ぼくがびょうき的时候、しんばいしてくれてありがとう。まいにちつづってくれるごはんは、とってもおいしいよ。これからも、かぞくみんながにこにこしてすごせるよう、がんばります。		

5 本時の学習

(1) 目標

家族がにこにこしている時はどんな時か話し合い、家族のために自分ができる「かぞくににこだいさくせん」の計画を立てることができる。

(2) 評価基準

B基準：自分でできることや家族が喜ぶことを見つけ、作戦の計画を立てている。

A基準：家族の思いや願いを考えながら、工夫して作戦の計画を立てている。

(3) 展開

過程	学習活動	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 ※Bプロジェクトの視点	備考
導入 10分	1 前時までの学習を振り返る。	○家の仕事をやってみて、家族のみんなは喜んでくれましたか。	・前時までの学習活動を学習カードをもとに振り返らせ、もっと家族がにこにこするためにはどうしたらよいか考えさせる。	学習カード 実物投影機
	2 パフォーマンス課題を知る。	○もっと家族がにこにこすることはないかな。		
展開 30分	「かぞくににこにこだいさくせん」をしましょう。そして、かぞくがにこにこするひみつをともだちにおしえましょう。			
	3 本時のめあてを知る。	○今日のめあては・・・		短冊
	「かぞくににこにこだいさくせん」のけいかくを たてよう			
	4 家族がどんな時ににこにこになるのか考える。 (1) ふたりで (2) みんなで	○家族のみんなが楽しくなったり喜んだりするのはどんな時ですか。 ・～と思ったんだね。(繰り返し) ・それは～ということなんだね。(言い換え) ・どうしてそう思ったのかな。(質問) など	※カウンセリングの手法を用いた言葉かけを意図的に行う。	
	5 おうちの人からの手紙を読む。	○皆さんの家族からお手紙が届いています。 ○家族のみんなは、どんな時に楽しくなったり嬉しくなったりすると言っていますか。	・子どもたちから出された考えを短冊に書き、キーワードごとに整理することで、次の活動につなげる。 ・自分の考えと家族の思いにずれはないか、考えさせる。	おうちの人からの手紙
終末 5分	6 「かぞくににこにこだいさくせん」の計画を立てる。	○家族のために自分ができることを考えて、計画カードに書きましょう。 ○何人かの人に発表してもらいましょう。	【思考・表現②(カード・発言)】 ※カードになかなか書けないでいる児童には、家族からの手紙と一緒に読み、問いかけをしながら児童の思いを引き出していく。 ・工夫して計画を立てている児童の内容は、全体に紹介しほめることで、他の児童の気付きに広がりや深まりをもたせたい。	計画カード
	7 教師の気付きを聞く。	○最後に今日の学習で先生が気付いたことをお話します。	※児童の気付きをまとめ、次時の意欲につながるような言葉かけをする。(1メッセージ)	実物投影機